大和猫儿

關稅必要な仄

めか

す

突泉縣

一十九日澤田代表での會見

日(日)日

京新 献 廖

のため鮮任し衆籍院議員出船平生計長が之に代るこさになった 地委入場券 六九票 坂

「奉天州日母國通」突泉縣長の報告によれば同地方は豪雨のため歸流河及び那金河は大空通は杜絶し、農作物収獲不能に陥つた面積は全耕作地のに入る。 農作物に大被害 復た洪水 に着手 せらむき ありさの 奇で探用せる入場券の質收で採用せる入場券の交付 堕落せしめらものであり安 論一種の風鋭に過ぎまいが し事費ありさせば市政を腐敗 怪なる噂が傳へられてゐる勿

0

親して替玉を絶對に許さぬ方 6闘係各方前では戒正され度 く地方事務所は局でも嚴重監 こさは安東の不名祭である かそる頃の傳へられ めるさ言つてゐる。

二月十

印度網は入超のため頗る困

ころらし

き述べるやカイタン氏は口を さ思ひ政府 5 交がして 5 ろ れは 5 ても商優が出來ね。 中度のやつた現稲税では 7

重九郎氏ぶシムラ會議出席気のため深井英五氏は瞬朝気のため深井英五氏は瞬朝

歌台進が必要だが印度の現 ・中省進が必要だが印度の現

き述べここで會談を終つた。

日本の産業をやつて行けぬ

無電を使用

遞信省で十月一日より實施

海外通信

は

日暮いた印度の営業者代表カイタン氏は平後四時よりポムイタン氏は平後四時よりポムペイ紡績聯合官々長モディ氏は平後四時よりポムの大は悪田代表さたの問答を貸した。カイタン氏は平後四時よりポムの大は悪田代表さんの問答を貸した。カイタン氏は先び澤田

澤田代表 標田代表

郎氏が追加された ・ 政府側では外務院一の通 ・ 政府側では外務院一の通

カイタン氏の意思は印度産業がで、商澤田代表に再替見を協調する積りらしく澤田代表の説明は承服出来なかつた複版調する積りらしく澤田代表の説明は承服出来なかつた複版で、商澤田代表に再替見を

國き提携して行く積りだ

懇請した

して過穀警察官局の手に協変 「安東酸」酒類私造の湿反さ また不正醸造 からは触らなかつた。

識の普及に資すべき嫡州寺開の産業開発並に國氏に對し知の産業開発並に國氏に對し知 残より一般に公開さ 十一時より奉天富士町滿磁袋 期待されてゐる 運動場に於て日端輯以者多 機械實演博覽會 川日開會式 つてるると警察當局に連見さ て堂々市中に販賣叉店頭に飾 造者等は今回又复不 されてるた安東市内の西領私 され市民語芸者間に用雪批雑 れた七に赤玉ポート 正醸造し

Car A Maria

に最も思影響めるメチー 造の模様であるが何れも人体 あり相常機範閣に亘る不正顧 度の此の単に京局では非常に れたちものとみでも数日本 酒で其の他にも

践め米綿は割高さなり。從つ 「というでは、これは昨年度と とは米國が産業復興法さ人工 とは米國が産業復興法さ人工 をは米國が産業復興法を が行はれたが、本年

で従来に比して連選される箸通じて通信し得る事になるの

の方法に攻奪し、仕四時間を

になつた、即り十月一日より改めて無視貞値連絡を行ふ事

増である。これは昨年度米

を協議したが會議の前途は愈

質を見越し輸入取極めが不買が激増せるここ同時に印綿不

準備着々進

國地籍調査の

て今春の質付期に印綿輪入額

通商正式商議は

四アフリ

のき 関6 决請前行

に於て即著になるも

女準端を進め甘下調査完行の中であつた地籍調査は其後着中であった地籍調査は其後着

菱刈司令官 6

10八票 近縣松五

竹田田 兼 太郎 即逸

の旅行を終つた菱刈軍司令官網東騰政務監督の当旅順方前 謀、鹽原。鶴見爾秘書官。今は卅日午後七年五十分辰己参 岡副官を隨へ新泉に帰還した 米た……o かういふ歌色を跳せるの暗域もあり (と目にいますつかり 澄んでゐるので、

富士紡績安東工場

合性下旬重要商品輸出入額を 一月以降累計人超 一月以降累計人超 大九、七五四 大九、七五四 概算左の如し(電位千圓) (東京州日發鴻溝) 大級省發 九月下旬十六港外網貿易 十六港貿易狀態 り大質と同じやうに無なのつり大質と同じやうに無ない。 はあられなかつたの彼はそ 見てゐるやうな心特にならずに 製と同じやうに舞歌の一場版 見てゐると、数一もやつば 見てゐると、数一もやつば 見てゐると、数一もやつば これ、我のあの一緒にゐる男を職 おい、我のあの一緒にゐる男を職 おい、我のあの一緒にゐる男を職 おい、我のあの一緒にゐる男を職 を問述と おい、我のあの一緒にゐる男を職 を問述と ない、我のあの一緒にゐる男を職 を問述と ない、我のあの一緒にゐる男を職 を問述と ない、我のあの一緒にゐる男を職

十六百八千

で至急翻譯し福府に個附したの大使より外務省に到着したの大使より外務省に到着したの

600th

は印度さロンドンの営業者會は印度さロンドンの営業者會は印度さロンドンの営業者會は印度さロンドンの営業者會は印度さロンドンの営業者會は印度さロンドンの営業者會の動物が纏る事明白などの対象を表現した。

して速急に下衛省を懸請した換公女の外務省假約女を提示

安東商議

常裁員選舉

見り

江製材無限公司 新造

安

の元票票

直太郎

朝鮮肥料株式會社

H

宗三郎

滿州銀行安東支店

吉

の五票

二上背記官長を訪問。日英交栗山條約劫長は楊府事務別に 瀬明が切迫する故外務省では

条約一個月延長協定案は條約(東京肝日榮國通)日印通商

に廻附

この宏局内に有力に擡頭し實力成素で急いで居る。 尚は研力成素で急いで居る。 尚は研究調査を一層確實ならしめる

一〇七票

正隆銀行支店

Ħ

假約文を樞府

英領西アプリカの通命條約問務省は世八日松平大使に對し

(東京州日韓國通)

會議の結果

條約延長 日印通商

し得る調査の範圍決定等に確 編係。技術編除より見て實行 案起草さ並行して土地の権利

英印當業者

中に官様で養表の筈で領欄れ一般皆第一回曾合は二十九日各談督第一回曾合は二十九日各談自打合せの点果。十二日午委員打合せの点果。十二日午

一二大票

清水、養準福田菊次郎

O.u. 1116

人量

第一回會台通商審議會

十月十二日

「安東酸」安東商工會議所常 五十分から公會堂で心票を開 前、同四時三十分締切、會員 自七十二名中百五十四名投票 (州紀十名以上三十名を)し たか直ちに開票向九時四十三 をか直ちに開票向九時四十三 をが直ちに開票向九時四十三 をが直ちに開票向九時四十三 たが直ちに開票向九時四十三 たが直ちに開票向九時四十三 たが直ちに開票向九時四十三 たが直ちに開票向九時四十三 たが直ちに開票向九時四十三 をが下。その結果だの如く電

九九八票票票

上原四茂

の如し(單位千圓)

をしていった。 を現はれた二人の方を見い間ちつと を現はれた二人の方を見い間ちつと 女のがけ

目を正常ながら點頭いて

派質品安

申込は

九名様心御引受せ致します 御宴 草の朝

生れた皆様のホー

三十六〇番

祝町デ目が四

鴨綠江製紙株式會點 朝鮮銀行安東支店 三勘代章 治 -水玉を碎べ

八六票 藤 平兄弟

m

(音三十) 古 高 经無斷上映上沒

根秀

浩劃贝

17 一回を二十週 中名在社 一回を二十週 を名在社 一回を一周五十週 を名を社 一回を一周五十週 を名を社 一回を一周五十週

日

日

案

內

j

川勝正

井

中島三

がやつて来るぜ」 がやつて来るぜ」 からいった時には十貫の頭には、からいった時には十貫の頭には、からいった時には十貫の頭には、からいった時には十貫の頭には、からいった時には十貫の頭には、からいった。 への使の掛かうといふか ながいふと英一はちよつと大賞さらいふと英一はちよつと大賞 が、これからそろり にゐるんだから間違ひつこなんぞ べんだから 見てゐたま 聞からとい 製曲の序幕

度家 高級主名 1 皆建平 商埠地等規靜 姓名 在 社

女中女を求む

智鲜爾人紙函職人

かんできた物が舞歌に現はれてできた物が舞歌に現はれて るかといふことは、ちよつとながあるので、その男が思があるので、その男が思かるるので、その男がない。 子らしい人影が見えた。 一 英一はさらいつ れは彼の女一人ではなく 英一はさらいつて旅場の でしかもそのからといふことはちよつと不動にには、「唇の長に取ってもから早く序書がいるのというと、「とはないないさっ」は作者・発達をは 打の形なんだ。きつかけを間違へ 門子が塊はれるといふことを知つ 「うふん、それぢやる君はこゝに であたのかい**」** 鳴らされたつて形なんだ」 產師 電四七五九番馬場紙凾工場 料和理洋

我村 せん 九電話四七八六番

十月六日至甲後三時 十月九日至甲後三時 十月九日至甲後三時 十月十二日自午前十時 十月十二日年午前十時 十月十二日年午前十時 11、種痘及食宿日制 檢疫月日時間 校庭月日時間 校庭月日時間

カフエー

新京警察署告示第七號

もこんな芝居の郷産監督は動まり間違へた仏で驚いてゐては、とて り窓いたやうな様子もないね」 り記さっちよつときつかけを しかし君はあんま 京 東 洗 張 専 門 電三七三三番 しき 消防除橫人

かなり

洋根海 各種製本專門 三受町三九 三省堂製本所

秋冬。吳服

旣

造金金銀 高價買入

道花及生花. 佛 横濱屋質店 製

Ø 加藤葬儀社 ▲ 章物羽織 ▲ 市 團 綿 ・ 部 郷 綿

條通

道具一

超話三一〇八番

月一 ぜ 日初めます

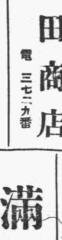
東京水柴町三丁目廿六番地 一二 友 社

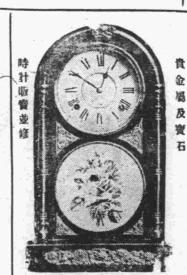
烹 話三四四五番 既に定評あり

金華堂へ

迅出

速前





店計時廳佐

11|空町二丁目 電話二三七九番

實もある 花も ライオンカフヱ 美人揃ひのウェータ連の意 ーピス振りを御覧下さい ホガラカなホー

俱新 新 景 新 景 新 景 新 景 新 景 野 奈 署 代理店 北鲜**運**輸

新示院公司第十六號 電和八年九月二十九日 昭和八年九月二十九日 西蒲四雪道株式育社 四和八年九月二十九日 西蒲四雪道株式育社 司 北 鲜 経 由 東京 ~!! 大 阪 ~!! 一款與引東京へ国際列車 月三日二變更天 月三日二燮更天草丸 5岁 學

新京警察署長

勝

速成班研究員募集 語

村 初學ノ方 (男女無關) 同 自午後七時至九時迄 一十月四日 (申込の三百窓) 三ケ月中 七眞(三ケ月中分)

婚禮衣裳着付 告野町市場前ミツワ屋書店内 SE = E = T

大學的一五

拼 柳 田

店御披露

二條層

目丁三町柴水

の折叉御来客の折には是非一度他に味気持のよい御座敷が御座います御散歩

へぬ美味をお試し下さ

ール食堂では

長春美容院

病原 黑一條 明四 三 衛 學 研 究 三 條 明 四 一 衛 地 層 上 衛 職 電 院 西 方

社

職隊第七中隊浦上歩兵伍長は功六級に 「東京州日發國通」 滿洲事變で戰死した 大きれたが昨年滿洲各地で戦死した九 大きれたが昨年滿洲各地で戦死した九 大きなれたが昨年滿洲各地で戦死した九 大きなれたが昨年滿洲各地で戦死した九 大きなれたが昨年滿洲各地で戦死した九

書に耐して 可在米國では

去三年間米鏡で建造されたの

海軍大佐 關

は同じく

軽快艦船の充實に着手し全海間の努力に依つて此等艦種でで今や百尺竿頭一歩を進めてで今や百尺竿頭一歩を進めてのより量に適したのでのより量に適したのでのよりに使用している。

足したからでなく當時政府がはならの建立して恵心より之に確して恵心より之に確して恵心より之に確

叙せられる事ごなつた聯隊第七中隊浦上歩兵伍長は

やつた」を云つてきちょ。

こして最も関心を持たねばな らねきころの主力機。 坑ェー の波浪に洗

軍力を條約限度に近寄せよ

間が短く而も其の期間内に

するごころごはならず破際間 た日本の行動も諸外顧の容認

裏にパファク式の假聴者を建さる配名の狭隘された一般市民の狭隘された一般市民

設代引小包、並普通小包の排

たのであるが愈よ満洲が起っ満が事變の勃破を見るに至つ

幹明したやりに條約の有効

は日本は相當有利な比率を明したからでなく當は政府がしたからでなく當は政府がの有効射のは決して衷心より之に関

艦及大巡洋艦であつた。吾人

米観の

語以後何等建 米國は倫敦曾

れは全然事質に川

・億圓を下らず 明年度豫算財源の増税には 高橋藏相は反對 增發

有してゐる



.

一、産業恢復は幾分上昂したが全部的に人 心の安定を得てゐない

系を樹立し増税す 兩三年の景氣伸長を見て確實な租 此の際增税断行せば人心に萎縮を來す 稅體

増養十億を下り得ぬここ明瞭さなつた 高橋蔵相は語る

日本側

五割に引下げ方

要求

印度愼

、重考慮

を約す

于學忠

の人智惠によるものなるこ館目であり夫人の遺書も中薗

に於ける中薗の供述は全然出 飲き取調べを行つた結果内地 まれて居る兇行現狀の模様に の内容を知らせ今問疑惑に包

ムラ會商愈よ

本格的討議に

して居るが、正確な数字は未 金々敵化し銃壁は到る處に起 金々敵化し銃壁は到る處に起

柳村第一〇八師より改編、非【天津州日韓認道】于郷忠は

昌黎に派遣 便衣五百を

て博士は殺人事件に関係なくることは確實さなつた。従つ

は中薗の手により博士が止め

さ略々確實さなり。

ての懸案で時期も充分即由が立つ、明年は郵便料値上げが考慮されるの みで之を遞信省でごう考 唯値上げは一般の負擔を考へるを難かし τ ゐ 5 か 知ら ねが豫

支那叉復日 聯盟 に持出 支問 題を す

有吉公使から南京政府に抗議

努力しつくあるに拘らず前 地の諸問題に帝國政府は再 他の諸問題に帝國政府は再 他の諸問題に帝國政府は再 他の諸問題に帝國政府は再 の営め斯るゼ日態度を騒重 の営め斯るゼ日態度を騒重

指庭は威民社會教化の助長に う教育映講及公共園体用フィ の教育映講及公共園体用フィ 定。それより

示あり 認らぬ様されたい」 さの訓 面目に、その本來の目的を ペーテーニン主演の る人生」の試寫を行ひ ~ | |

ロツスフィルム撮影所製作ト 押収持ち歸つたソ聊モスコー

唯一の手段であり、教育映畵ードの檢閱は不良品の關逐の の普及を側面から助成するも唯一の手段であり、教育映畵

別は、一般のでは、一般の

ナ市中

中に於ける共産党の示

威 *

せしめて居る

邦人請負人

入り込んだ共産職員が煽動しにはソヴェートロシブから這

狙撃された、因に今回の駆援撮影者も衝突の實况を撮影中

では別に焼造した特殊保安除一千餘名が襲縣で通過阻止されたは別に塘沽より五百九十名を便衣にして昌黎に派出し、第一○九師改編の鋭血教導閣を関門に派し掃進に協力すべしこ命令し、柳村駐軍中より

さなつた

を符ち大切に護送されること

逮捕さ

れた兩名は身体の恢復

問はれるであらう、向内地で 屍体遺棄亚びに證據煙滅罪に

だ判明しない尙米人ニユースして居るが、正確な數字は未

更に惡化

橋氏各方面の改造を力説 延長するを得。

く决定それより先般哈市より をされる様常局に建議し たい」を提議、これ叉異議な たい」を提議、これ叉異議な 林参謀少佐よの映畵寫真レコ 撤廢論のつて、一同賛成、異

右に関しては既にロンドンに前つたので極めて實の入つた前のたので極めて實の入つた前のたので極めて實の入つた前のたので極めて實の入つた

立したので、右諒解通りにす の交渉により一個月延長し、 延長するを得。この諒解が成右明間内に総6の場合は更に

天津駐

电第二交代部隊

示した、 之に對し甲毒 税は高きに失するを以て之を綿製品に對する七割五分の關 案を爲し、それに就て日本側五割に引下けられ度しさの提 て山梅陽、農州方前の凱旋十一等東停車場最車塘市に 思び出深い北支の地を後に御用船で塘石を出帆一年間 除さ合體し二日午冷零年發 一で代の天津部隊は一日午(天津一8菱衂通)駐屯軍

母のの部於

退職發令

局長たりし松田道一大使は後

公使後任は ポーランド

三十日午後七時五十分歸京三十日午後七時五十分歸京

体

電

4 往

來

伊藤述史

氏に決定

(東京三十日發國道) 前條約

くなつた。

掛である 掛である

天津發歸

夕刻に至るも到着せず安否氣動して瓦房に向つたが仕九日

遺はれて居る

路建設のため苦力百七十名を路建設のため苦力百七十名を

新京上下水道工事受付八工事制力關係上昭和八年九月二十七日昭和八年九月二十七日

まく行方不明 跳南を出験した

松田道一大使

曜

本政府の遺憾さするさころのご思惟せらるしこさは日のご思惟せらるしこさは日

日を標榜し居るに拘らず

執裏

大和ホテルに於て開育、先づ委員會は三十日午後四時から委員會は三十日午後四時から

曾長張寶業郎總長の挨拶に次

恵度を若し南京政府の默認 態度を若し南京政府の默認 があれるに於ては帝

はいで副會長闘村副参謀長より はいで副會長闘村副参謀長より

母体たる本會の健全な名 達る備洲蝦建設の重大な

日米建艦

問

題

(上)

味するものでなく両國こも施軍計畫は何等造艦兼事を

海軍卿

氏は日米

を何等拘束しないのみならずが減了した後には日本の立場

該條約 如此以此

を締結す

係意のン

約上の権利を賭けす

正とき認識を以て

約違反ださ云ふのではないがないさ語つたき傳へられる。

では、然し乍ら其の後の副祭が出來るものさ信じた爲であ

するに決定し、アグレマン到 事務局次長伊藤述史氏を任命

の逝去によりボーランド公使 (東京一日#國通)河合条使

▲熊本縣農事生八十三名代表 公尾氏三日午前六時著午後 公尾氏三日午前六時著午後 公尾氏三日午前六時 名代表三好氏二日午前六時 著午前十一時三十分最周水 音本氏懸ホテル投宿中一日 宮本氏懸ホテル投宿中一日

感じなかった筈の

入規模 の造艦に

府會議後慢心に慢心を重ねた

ド氏も論じて出るやうに華

支那は、農戦し発に

増しつくある小包の路に感ず
新京郵便島では最近著しく敵

液をけつてゐるが緑々崎祭中 の販舎がいよく、來る十五日 頃竣工の豫定で其の鴨は小包

現有兵力で國防上別

て着にをが條

英人タエー・オー・ビー、ブラ待に添つたものはなかつた。 情勢は殆ご一さして日本の期

郵便局の増築

九日ごろに竣工

小包の配達が早くなる

誤解を一掃せよ

國政府も之に對し断乎たる

日本政府が親善増進にも

洲事件

第十回論功行賞

围

如

べく三十日訓令を發した 南京政府へ抗闘さ反省を求むき見地から有古条使を通じて 出してゐるので外相は次の 上輯維鈞代表又復同問題を持てるるが二十九日の理事會席

映畵國策研究會

一五民間被告

第三面公判

第三回委

あり殊に支那政府は口に親成立以來優めて友好製係に成立以來優めて友好製係に 成立以來極めて友好製係 あり殊に支那政府は口に

より開育愈よ本格的討翻に入第三次日印會商は午前十一時

側は首席代表ポープ長官も初だが、殊に本日より印度政總をが、殊に本日より印度政總を開いる。 るので双方代表頗る | 次回 | 再開の筈でを約し正午散曾した は十月三日 32 ある

ハパナ市

中の

の總憲の反映するものまして考へる。然し現在の闘會の して考へる。然し現在の闘會の で表して、一般民を代表でしたて「農民を代表でこれが構成員たる闘員の をでこれが構成員たる闘員の をでこれが構成員たる闘員の をでこれが構成員たる闘員の をでこれが構成員たる闘員の をでこれが構成員たる闘員の をでいし」を派して「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派して、「農民を代表 をでいし」を派と、「農民を代表 をでいる。 といる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 といる。 をでいる。 といる。 とい 瞬き執行機関が無けいはな6 に基かねばなられ、それに國民協同体は國民の自由意 の總意の反映するものさしぬ、翻書制度は飽くまで劉氏 國氏の總理を基言する表決機 氏協同体は國民の自由意志の知己に感じた經緯を述べ 割 って一進展を観る豫定であり對支調係は蔣公使の歸任を批問脱退後の列戴關係。對支關照任を批問的。 對支關 對米關係は大使以外に使節 は三十日午前九時半蔵相官邸(東京卅日酸衂通)廣田外相

並びに市場を観民のカに依つ りはない」 ご論じ 「國家の権 りに依り市場經濟を徹底的に して置いて好い ご賞ふわ

新和平外交豫算につき

田外相藏

相

と懇談

無見を でそれより。土地制度の改革 でもれより。土地制度の改革 開陳一

論に及び、数育

野在の大學は職業紹介以上の何者でもない」 ご罵倒し一方「小學校が 家康 こか秀吉 こかの征服者を英雄さして見意に致へるが如きは恐烈 傾まる」 ご述べた

へ轉補

。佐藤、武田府中將 近く關東軍

氏を代行せしむるふさなつた。事務局の事務は常分べつた。事務局の事務は常分べ

開拓海軍機 日滿航空路

た記り

通 the 定

事羅津に到着

須賀航左除飛行艇は昨日午前 空路船拓の相澤大尉指揮の横 時卅三分雞津に無事到着した断航空路開拓に改功し午後四八時卅五分新舞鶴簽日本梅橫

軍の某要職に轉補さ決定した附武田秀一所中將は近く関東附武田秀一所中將は近く関東附佐殿三郎。近衛師團司令部

物 見 王博士

殺人行爲に何等關係なし

り世

右平和工作に質賞を表し午前

十一時辭去した

法務官等

東京に引き揚ぐ

海軍側判士

五事件梅軍被告の判决に関し 世日の結審以來高須判士是以 下各判士。法移官等は砲術學 校に宿泊して研究中であるが 州日塚崎、福田兩辯護士ご會 見後一同東京に引き揚げ、判 見後一同東京に引き揚げ、判

營業科目

特案特許萬代襖 選 造 販 賣 新京東一條領(織鐵板院西門前) 兒玉疊襖店

二二九〇

瓦 月月 電品 球 H 間 に限り

たつた

金 拾 錢 0 交 P

宣各滿 3 引 電 换

換

自 動

更報

お知らせ

日 より八日まで(一週間)

新京百貨店

し致露披築改

壽きや

静堂では三十日中にすつかり 戦争會場に宛てられた室町校

選舉長荒木地方事務所長がそ準備を終り定刻早く、けふの

奥深く消えるここれにつてく

足は意外に早 棄權も割合尠

17) は満鐵 投票者で賑つた選擧會場

でかけ、はては「お茶一杯」でかけ、はては「お茶一杯」

午後二時

午後一時 正午

.

六六四票

五六〇票

所職係の者が一杯押しかけて 中山氏の事務所では磯道事務 宮城兩氏は南ひ合せに對立。

事務所の中同じ繍鐡の中山、選舉場外に設けられた各候補

午前十一時

心地委選事の投票經過

近の弾やでする

中山氏もジョセイ(恕此)が、類むこここなれば流石のでは流石の

出足は意外に早く午前十時までには既に五百六十票の投票がありこの形勢では棄權正八時からいよく、投票の受付が始まつたのであるが好天と日曜に惠まれたせいかくも制服の滿鐵社員の一團がドツと一時に詰めかけて人目を引いたが、かくて午前候補者、運動員、熱心な選擧フアンなどで、なんとそれは素晴らしい景氣だ、校門選擧會塲にあてられた室町小學校附近は早朝からけふの結果如何にと詰めかける各選擧會忠。に一旬、總决算の日は溪に來た、けふこそ吾等が代表を選ぶ最後の日だ、政戦こゝに一旬、總决算の日は溪に來た、けふこそ吾等が代表を選ぶ最後の日だ、 く三割方程度に止まるではな ど見ら τ

吉川組の中野さん は

へて購入側は氣栗薄だけに投 ・ 本は日人側の活氣横溢に引換 ・ 本は日人側の活氣横溢に引換 ・ ながやつて來たがやはり選 ・ は日人側の活氣横溢に引換 青木所長が 泉香の出足も鈍く。開場三十 別の投票があつたにも拘らす 第二受付はほんの飲名さいる

々清き けふ急行で四平街を往復

事務所長、 心に年前七時半の念行で新京 に着くこ早速選舉場へこかけ つけたものだ、受付が始まる が早いか某候神のために異を 入れてさつさき引揚け九時種 の急行で又も四平街へ引返し た、まづ今度の選舉では第一

現業員さして日曜も休みなくまった。これより先き備銀のまった。これより先き備銀の計が始かった。これより先き備銀の

係員らそれら、

所定

の係員席に

曜

綾川武治氏

業で同じく 職員を がしたが二日は年前八時より がしたが二日は年前八時より がしたが二日は年前八時より がしたが二日は年前八時より がしたが二日は年前八時より がしたが二日は年前八時より

六百八

かりにこの一願が詰めかけて
あさ日人側受付ではパツきば

をれにつずいて殆ご があり組の中野八松さん

同時一番地爾達列

投票の一番槍は東一格三四早くも受付子面喰つた熊……

もかねてみる。やがて日人側、 数名が開場時間今や遅しさ待 数名が開場時間今や遅しさ待

環人館の受付では満洲國大興 の一郎、これは一般動等者 ミ しての皮切りであつた。また

ジつご押掛けた日人側受対 さいひながら小壁で **領事館者の今江警部、** たさころを見せながら に例の栗領のよい 原氏の選舉事務所で朗かな顔 八時過ぎには早くも投票。 14名 けふは

新京驛員

恰度二十年前の内地の光景 やあ総分媒んなものですな すな警察官がこんなこと 4で……ハハアハア

してゐるき明日中には首 にスピードアップ断で、列車で3ミ……列車時刻改正で同時で15ミ……列車時刻改正で同時での出来

世た人、常時を思出したか否因縁深く、全國的に名壁を馳 に名警視さして選欅には妹に今江さんは京郎、和歌山時代 か感慨無量さいよさころ 揮しようさする一日、増験等々で断然旅客本位を軽

から吉長吉

助役事まで乗いて大きな口を法をなじればモンクあるなら

カンくに

氏が最高らしい」この評が各の候補を駆した形だが「大原のな何さいつても大原氏さいのは何さいつても大原氏さいのは何さいつても大原氏さいのは何さいでは、早く他のない。 五人を引連れて九時四十分發際で當地等住日本人が嫡人十二十二十分の議場に經營委任をした新ぶ 七、八個を各自積込もうさす 列車で吉林へ行くため手荷物

かの容引 に列車は競車しこうく、卵りきいた、まごくしてゐる内 赤になつて抗議を申込んだが なつて助改室に飛び込んで けぐれた件の男。

所で囁かれてる

等回祝町二丁目金剛寺境内に 新に出來た廉寶場は二日から 開業。毎日午前八時より午後 開業。毎日午前八時より午後 で化粧品。世帶道具。食料品 金剛寺境内に 廉賣市場生る 公設市場に對抗して 新京に派遣せられるこさにな て、居り近く幹部社員河合氏

新示に支店を設置すべく永樂朝鮮京城丁子屋では豫下満の朝鮮京城丁子屋では豫下満の で公設市場より自由な販賞を安く賣るが經營は數人の合資 土産物を取扱ひ市價を切つて 先月九日家人の隙を窺ひ情夫 こき籐田イチさん方抱へ懿妓 大連中逢坂町二七科亭職榮樓 驅落ち藝妓 逢坂町の 新京で捕はる

北 本排球 央 勝 212420 戦

でて後半朝東州力戦途に優勝 吉 林 省

公設市場より

京城の丁子屋

河豚又も名力士を倒す

作車の中ツ海 (株1日登場通) 武蔵山、男」 は装市で興業中手料理の河豚

十月三日より支店事務を開始 成り地階共五階の大建築竣功 流石にけぶの責任者だけに受ち離れてわざく曾錫を一個も離れてわざく曾錫を一個

は何等の障害もなく無事優車 ・ 一 は何等の障害もなく無事優車 ・ は何等の障害もなく無事優車 ・ は何等の障害もなく無事優車 ・ は何等の障害もなく無事優車 は本級ホームに於て行ひ。午 ら列車入れ換へ發音卓共。 歳 一日から單一化されだ新京驛

飛んでもない旅客サー 満人の荷物を降し 本人客の荷物を積み込む

た該引率者日本人は瞬員の不の容の引きドレヤマドホテルの容の荷を積み込んだ。癪にさわつた該引率者日本人は瞬員の不 エプロン問題 一不平を言つてるた

京署保安係では一日午後一時常局指示の女給エブロン問題新示の文給エブロン問題 集を求め門田警部補より當問 同組合態度改善に関し種々注 瞬發案の主旨及將來に於ける より三笠カフェーに役員の参

修一員、新京特市二員の成績 △男子排球第一回戦

接戦を演じた 北滿勝つ 排籠球决勝 錄)女子二百、平泳三分〇秒二分四秒八小池選手(日本記 四前畑秀子孃(世界最高記錄) 選手(日本新記錄)二百平泳 九秒中岡初平壤、日本記錄) 女子八百米自由型十二分三十 新京窯業ボヤ

一日午後一時ごろ市内日本橋 連九十一番地新京窯業會社の 連九十一番地新京窯業會社の 出火したものである。

山崎齒科

中央通西公園前

診

時

間

球優勝戦結果左の如し 滿洲体育大會第二日男子排籠

△龍球决勝戦

16 10 (

吉 | | 林 312 林 15

車時刻改正 満員お客を つなく遂行

で載せて 別したが 助役さんでうまくまさめて陳

だではなくて満駆さヤマトホ本人の荷を優先的に積み込ん きがあるらしいき、後までブナルさの間に何等かの掛び引 件の一男の話をき けば俺選の

五分より別始されだ

△女子排球。

吉吉 古 林 林 湖 驾 47 2 2324 2220 [] [] [] 一年一回

十五分より開始の △女子排球リー

四百米脊泳。河津選手四分三郎九時秩父宮殿下御臨席を仰前九時秩父宮殿下御臨席を仰前九時秩父宮殿下御臨席を仰前九時秩父宮殿下御臨席を仰前九時秩父宮殿下御臨席を仰前が呼音体育大量は三十日午明治柳宮体育大量は三十日午 手五分三秒四(世界紀錄)男 于四百平冰六分十五秒六小田 記錄續出 6國通)第七回

り、素人の入場者がなく、勢のないのかを知らぬ市氏さなかないのかを知らぬ市氏さないないのかの変易さない。 そのため賽馬が始つてゐるの 出版 出版 に現れた競馬ニュースは かってあつた ひ盲質がないこさになり大穴 るなく益々人氣を低下するこ 一十五日の夕刻配達され 郵便局の手落ちかも判らわが **したのみで豫め宜傳を依頼す年の宜傳は只に新聞社に廣告** 招待狀の如き

率話四八二三番 ハマ ムラ

電話二二六七

曜町三ノニニ、滿鐵病院ノ裏



息さいつた顔で悠々さ投票場眺めて蒐遺螺なきにネフさー付室内を一わたりギロリー へ、受付子 一同さすがは御大

あた。 最高點者たる又痛いか ででく」さい配さうにして でいるがある。

あさ。これき前頭して荒东地が靜かな足取りで這へつて来

午前八時四十分江部高女校長

亭大吉こさ宮本吉三郎氏方へ 押へられた 手三百圓を陪倒し逃走し二十 夫婦き稱して住込んでゐるを

-0

部の失態

王又生

第二回體育大會 籠球優勝戰

は午前九時より、排球は男子戦は前日に引縛き四条頃グラ戦は前日に引縛き四条頃グラ 女子排球吉林省優勝 日程全部を終る響じあるれ終つて賞品授與式あり天會 はれ、全拳大料浦加減チーム西条関に於て足球優勝戦が行 のラグビー模範試合も舉行さ 第二日競技全部を終了した。 本日は午前九時より同じく

に愛想よく人場に及ぶて愛想よく人場に及ぶ

立教勝つ 早立二回舞 の失敗は知何なる原因によっ の失敗は知何なる原因によっ をのか、それは俱樂部の宣傳 不足のためがあるさ断じたい 何故なれば世界何れの處でも 整馬は人間の投機心に乗ずる 管利事業であるみこさは始何 に名目を附するさも周知の事

22 章 天省

△バスケットボール第一回戦

明大快勝 **連日の景況を傳つて客足を狩りてはポスターによる宣傳及び** り出すべきである。然るに今

前 專

焼まんぢう 1 [11]

テ御注文ニ應ジマス各種其他一式、破格ノ御値段ニ事務机、椅子、タンス、茶ダンス

木炭ノ卸及小賣

石 炭 和洋 話《二五八二

試験明日及場所・十月二十二日(日)本校内ニテ行フ願書締切十月二十日(明紙本校ニアリ)

けを滅じてゐるが。今年のこけを滅じてゐるが。今年のこり揚

一、川願日時 (略人二級ス) 算術 珠算 支部語 、二、三、四、元、六、十、八期及ビ速成班 1、二、三、元則及ビ研究科 日語二別(略人二級クルモノ) ・ 開講科目 生徒募集廣告

ロ競馬俱樂部は二

すさ同時に。 場政局の所謂官 は勝移を受け、宣傳の萬金を明 の はり 你式力社を11め「賽馬俱樂部」 である

う話がありやしたかり

ち取られやせらが、左も右表面タ

ア大院の事でせら

が、今日は付助の 先生の 時所けつて、お訪ね もしませ んでした で・少し相談があって來やした」

りや又別に何時かは、題上衛形金 からお下げ渡しになつたもの。そ からお下げ渡しになつたもの。そ

『イヤ親方、他の方もツイだしくだ、今日は能うこそ……』

権兵衛呆れ返った。四郎左衛門

「親分、其後は関無沙汰致しまし

ではず。二百解於へて差上げるんしてゐなさる。身の代金は一文もしてゐなさる。身の代金は一文も

● 專屬荷扱所 各地硬際運輸會社支店 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社

顔向けが出來ねえ』

を構の事は、権兵衛に任せたから とがありませんが、お手続で対対

料として二百階級へます」 き

配ひ三百 聞と観は老へて あましてお話はありましたが、若し其話が成めて出たら、先づ千層で、別

っですか。そんなら落間はお

食堂樂竹葉

外皮科膚

性 秘 尿 科

同

醫

診療(幹帳式

的) 日曜祭日午前中

碁盤目 引替

I

塲

完

前話次年(48

5)で何ひ致しかす

富士町二

の話二六〇六巻

す。唐大橋兵衛が根引きしやすか だだならもう 個も言はねえでいまれて三龍屋の鉄が、太 とうがせう。 扨て三龍屋の鉄が、太 とうがせるまでであるべく戦ひといふ歌でした。

ス とかを覧場の出唐が権兵権も、III かとは背つてゐられやせん。何うかだが権もダドでは、へくさらですかとは背つてゐられやせん。何うかとは背つてゐられやせん。何う

(8

に、ブラリ と三浦屋へ やつて本 て、千服からの代物を二割の金部の機兵衛。武月十一日殿開きの日 にしなさんな。唐犬が顧役づらし

新車連絡の符(生復の符へ で、世間、神戸間乗船の大連、世間、神戸間乗船の 大連、世間、神戸間乗船の 大連、世間、神戸間乗船の 大連、世間、神戸間乗船の 大連、世間、神戸間乗船の

客の事だから

四郎左衛門は第て一郎製ある俠

は主職が素智せると、『では言つ一に主職が素智せると、『では言つ一たが、未だ手附け金も受取つてるたが、未だ手附け金も受取つてる 三浦屋四郎左衛門は、大淀を青 候客の同情(II) (五十三) 三百殿で繁體しやせら」 三百屆で業権します。

おいであた。 一が静山主機が、其機にしてあるのは、今直で邸へ飛いを育はれた自分が、悪に妖好できになったと、腱林悪中に育はれるができる。で、双二つには自を待つてあるので、双二つには自を待つてあるので、双二つには自を持つてあるので、双二つには自を持つてあるので、双二つには自ながが疑惑女に下げたのだから、盆とは出さずに服験らうといふ、此の

マー・質させて貰ひませう」 オ・質させて貰ひませう」 で 類ららいませう」 「イ、エ たよの二百 胴なんです 『ハヽア、千三百瞬から二百扇引 『先づ二百兩でせる』

●八白の人名利に焦れば首尾 甲き庚き癸が吉 を全ふせず質直なるに吉

鰻浦燒

友辛月引丑嘅

●一白の人 僅かの事にも取 巳き辛き亥が吉

の準備を爲すには適當の日 控へて成るべく舊業を守れ二二黒の人 新規の事業は手 手順を整へ活動

通想和京新

御食道と

靑

電話二九四二番

で萬事物のべき日単論注意の以降の人 時機未だ到水ゼ ● 五黄の人 手綱を引締めて

志望成るも勢に任す可6ず 村闘するによろし 運氣良好にして

ホホの落ちさうな美味

ボ

口腔外科

辿ら萬事進んで大吉さなる 旺盛なる氣速を

野遊のお辨當市場

內容

三大阪商船出帆

X1111等船客設備船 X1111等船客設備船 (大阪)行 用くださいませ 間會食にはノンビリミしたお座敷を御利 樂道食

電話三九三六番

女中數名入用 實 管 衙 雷 图 4 通道ホテル



●切符發賣所 土

十月十二日

ヤメンフーリストピューの 承機沿線主要各្段を地の

今秋流行の粹を誇る! 半ゑり一帶 御安たして お求めを 揚

验人組合那想店 豊富に取揃へました! 力 商 電視のた一番店

類 なり 料材廻床 板ヤニペ 木銘椒井天 飾裝內室·材具建具家

> 品 庫 豐 在) 會商川吉懿 大四通央中京新香三一九二話電 社

> > 方



配達は飛行式 食料品を (日際祭日 場 日華洋行 日正午乞、日曜祭日休龄)(當分休龄)(當分休龄) 內 貨 早

宮崎超新京支店祝町二丁目電二一四三 許崎特 滿·鮮 組崎 宮・洲

御料理 電話 二七八四番 梅

徵 特

機械製ナル

新 以良

自

色煉瓦 永久保存

、殿寒ト雖モ凍結ニヨル建物破地下室其他濕地建物ニ好適地へ ナシ 破損 ノ慮

東日 香 丽 洋 田 蘭 田 帯 場 境 煌 **満洲國際電光** 金龍洋行 € 2755 **宋柴町一丁目電四八三五**谷

粉精粉味調級

リアー店債雑粉食園全 司公通大舖本

前校學公町留京路城。京東。第工造製

新 興 司

製造販賣 營業所 I 寄電町 埠地 西四馬路電話長四七五八番

ナルニ付破損品尠ク 員品勢ク實際使用數量ラウ以テ寸法正確且ツ堅牢

節約シ得

書類作成、日滿鮮涌譯及飜澤||日滿氏刑事訴訟、顧問及鑑定、貸家貸址管理並請||日滿氏刑事訴訟、顧問及鑑定、貸家貸址管理並請

通辯護士 事務 田 九柱 五浩實

京

電話四九〇

電話四七九〇番 古 村 元 七 郎

洲 測監製請建 量督圖頁穿 政府指泛請負人 新京室町二丁目九番地

滿

主 司

目科業營

:t.施設工木

地工計事土

新京入船町二丁目 五番地(二條橋北詰西へ入) 業公 電話四八六九番 工場 戰道北揚家威子

司

煉

唸を生じて大評判

不况を外に大發展

鰻かば焼トざんぶり

三笠町二丁目

瓦製造販賣

-

おび幕丁を安心し

て買くる店